



 **コスモエネルギーホールディングス株式会社**

# シーズ・メール CS MAIL

**Vol.80 株主通信** 2015年度 事業のご報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

特集

## さらなる 安全操業に 向けて

ココロも満タンに



 **コスモ石油**



## 石油精製・販売

産油国から大型タンカーで輸入した原油は、製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わり、全国のサービスステーションや工場などの需要家に販売しています。

### 売上高

# 2兆2,443億円

### 経常利益

在庫評価除き

# -361億円 326億円

#### 在庫評価とは

民間の石油会社では、法律に従って石油を70日分備蓄しておく義務があります。2015年度は、原油価格が大きく下落したため、備蓄してある在庫の評価が大きく下がりました。

# エネルギーの安定供給を通じ、 グローバルな垂直型一貫

ポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレン及びプラスチックや合成ゴムの原料であるエチレンやプロピレン等の製造に携わっています。



## 石油化学

### サービスステーション

# 3,054箇所

※コスモエネルギーグループ給油所数(2016年3月末時点)

### コスモスマートビークル累計契約台数

# 27,401台

※個人向けカーリース(2016年3月末時点)

原油処理量

日量 **45.2** 万バレル

原油埋蔵量

**161.4** 百万バレル

生産エリア アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国

※確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計 (2015年12月末時点)



石油開発

長年の信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国において原油の自主開発・生産に取り組んでいます。

社会の多様なニーズに応えます

# 総合エネルギー企業へ



風力発電所

**22** 地域 **145** 基  
国内 4 位



エネルギー供給の多角化に向け、再生可能エネルギーに注力しています。グループ会社のエコ・パワー（シェア：国内第3位）では、風力発電事業の拡大を図っています。



再生可能エネルギー



# 独自の強みを 生かして 成長分野を伸ばし、 企業価値の拡大を めざします。

## 厳しい経営環境の中、 3つの成長分野で道を切り拓く

国内の人口減少や自動車の燃費向上などに伴う石油需要の減少と、原油価格の低迷等が加わり、石油業界を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。その中でコスモエネルギーグループは、(1) 中東産油国との強固な信頼関係を持つ石油開発事業、(2) SSとお客様との接点を最大に生かし、カーライフ関連市場を開拓するリテール事業、(3) 20年間にわたり売電価格が保証される固定価格買取制度により、長期的な収益源として期待できる風力発電事業、を3つの成長分野と位置付けました。再編により同業他社が規模を拡大していく中、コスモエネルギーグループならではの強みを武器に、持株会社体制の利点を生かし、スピーディな合理化と、事業展開における機動力と柔軟性で、成長への道を切り拓いていきます。

## 2015年度の業績について

2015年度は、原油価格下落による在庫評価損687億円の影響により、営業利益▲297億円、経常利益▲361億円、及び親会社株主に帰属する当期純利益は▲502億円となりました。一方、在庫評価を除いた経常利益は326億円となりました。

セグメント別では、石油事業は原油価格下落に伴う市況低迷で減益となりました。石油開発事業は、生産量は増加したものの、価格下落の影響が大きく、減益となりました。

石油化学事業は好調なエチレン市況、及びヒュンダイオイルバンク（HDO）との合併であるヒュンダイコスモパトロケミカル（HCP）のコスト減少により増益となりました。

## 2016年度の見通しについて

2016年度は、営業利益775億円、経常利益675億円、及び親会社株主に帰属する当期純利益は475億円を見込んでおります。一方、在庫評価を除いた経常利益は545億円を見込んでおります。

原油価格下落による石油開発事業の減益はあるものの、石油事業では千葉製油所2年ロングランによる稼働率向上や輸出の増加及び市況の改善等により大幅な増益が見込まれます。石油化学事業では、アロマ市況の改善や丸善石油化学の連結子会社化等による増益が見込まれています。

## 財務戦略と株主還元について

当社は2013～2017年度の5年間で、成長の基礎を固め盤石な経営基盤を確立する期間と位置付け、「第5次連結

中期経営計画」を推進しております。石油事業と石油化学事業においてアライアンス、合理化・効率化を推進する一方で3つの成長分野の事業拡大を図り、原油価格変動等の環境変化に対しても、安定した収益が見込める事業ポートフォリオを構築していきます。

2014～2015年度では、原油価格の急落による在庫評価損の計上や、主力の千葉製油所において震災による影響がありました。本年度は、原油価格の緩やかな上昇や、千葉製油所での2年ロングランによる増益を見込んでおります。

また、これまでの成長のための大型先行投資が徐々に回収期を迎えます。製油所のアライアンスによる合理化・効率化や3つの成長分野における収益拡大に加えて、遊休資産売却等を実行して、キャッシュフローを改善し、早期に財務体質の改善をめざしていきます。

株主の皆さまへの還元については、安定配当の方針を継続してまいります。2015年度は在庫評価損の計上で連結利益は赤字となりましたが、今後は利益の好転が予想されることから、年間40円の配当をお支払いしました。安定配当の維持は、当社の資本政策における最重要項目です。財務体質の改善を進めるとともに、2016年度は年間50円の配当を予定しております。

当社は独自の強みを生かした成長分野へ経営資源を集中することで業績を伸ばし、社会の公器としての役割を果たしながら企業価値の拡大を図って参ります。株主の皆さまには今後も未永くご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

2016年6月21日

代表取締役社長 **森川 桂造**

# さらなる安全操業に向けて

当社グループの千葉製油所は、  
高圧ガス保安法及び労働安全衛生法に基づく  
認定事業所としての資格を取得いたしました。  
その効果とともに今後の安全に向けた  
取り組みについてご説明します。

## 千葉製油所 事業所概要

(2016年3月末日現在)

所在地	千葉県市原市五井海岸2	ISO9001	1996年12月25日認証取得 2014年3月29日認証更新
操業開始年月	1963年2月	ISO14001	1998年3月13日認証取得 2013年3月12日認証更新
面積	1,169,547平方メートル		
社員数	426名		
原油処理能力	220,000バレル		

MAP(周辺状況)



## 当社グループの安全管理体制

当社グループは、東日本大震災後の事故をきっかけに、「コスモエネルギーグループ企業行動指針」を、安全を第一章とした構成に変更し、コスモ石油を中心にあらゆる現場で、二度と同じような事故を繰り返さないという強い思いを込めました。

安全管理体制につきましては、製油所部門の安全活動の継続的な改善と環境保全のため、これまでの製油所安

全改革委員会と全社安全推進委員会を統合し、2015年10月に安全環境委員会を設置して一元的な管理による安全環境活動を推進する体制を整備しました。また、世界標準以上の安全操業・安定供給実現に向けてコスモ石油統一の操業マネジメントシステム (OMS<sup>※</sup>) を構築し、2016年1月より運用を開始しました。

## 千葉製油所 2年ロングランへ

2016年度より、千葉製油所は、高圧ガス保安法及び労働安全衛生法 (ボイラー・第一種圧力容器) に基づく認定事業所としての資格を取得いたしました。これにより、自ら法定検査 (完成検査・保安検査) を行い、毎年実施していた定修

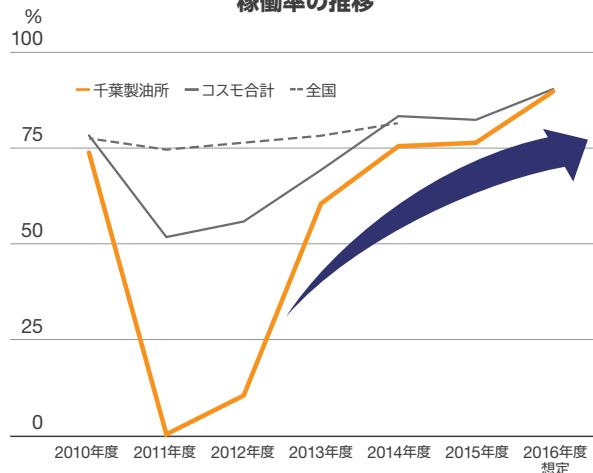
(製油所の定期修理、以降「定修」) を2年に1回とする、2年ロングランを行うことが可能となりました。今後も引き続き安全操業・安定供給を継続し、4年ロングラン (4年に1回の定修) をめざしていきます。

## 2年ロングランの効果

これまで定修の期間中 (約2ヶ月程度) は、千葉製油所の生産能力に応じたガソリン、軽油等の石油製品を精製することができず、十分に精製マージンを享受できない状況がありました。しかし、今後の2年ロングランにより、生産能力に応じた石油製品の精製が可能となり、大きなメリットが期待できます。さらに、これまで毎年定修を行っていたために発生していたメンテナンス等に関する整備コストの適正化も可能となります。

当社グループは、上記の生産能力と整備コスト適正化により、精製コストの大幅な改善 (年間約70億円の効果) を見込んでいます。

稼働率の推移



※ OMS (Operations Management System) …各種業務システムの実効性・有効性の確認と評価に基づき、継続的改善を推進することにより、より一層の高い水準の安全操業・安定供給を実現する仕組み。



# 石油化学事業

Petrochemical Business

## 主なグループ会社

コスモ山石油  
CMアロマ  
丸善石油化学(持分法適用会社)  
Hyundai Cosmo Petrochemical(持分法適用会社) 他

2015年度

2016年度(予想)

売上高

**481億円**  
(前期比 ▲70億円)

**4,170億円**  
(前期比 +3,689億円)

経常利益  
(在庫評価除き)

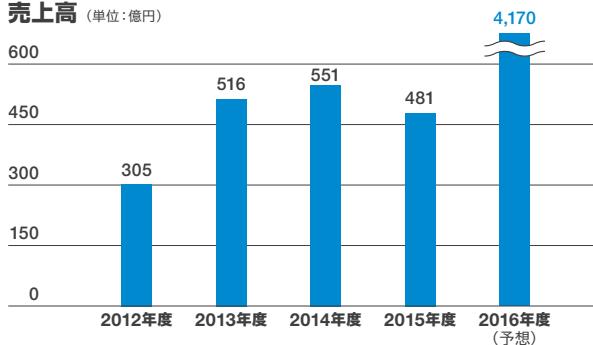
**42億円**  
(前期比 +112億円)

**70億円**  
(前期比 +28億円)

## 当期の概況

売上高は、原料価格下落にともなう販売価格の減少により前年比70億円減の481億円となりました。一方、在庫評価の影響を除くセグメント経常利益は、好調なエチレン市況及びHCPのコスト減少により、前年の70億円の損失から112億円改善し42億円の利益を計上しました。

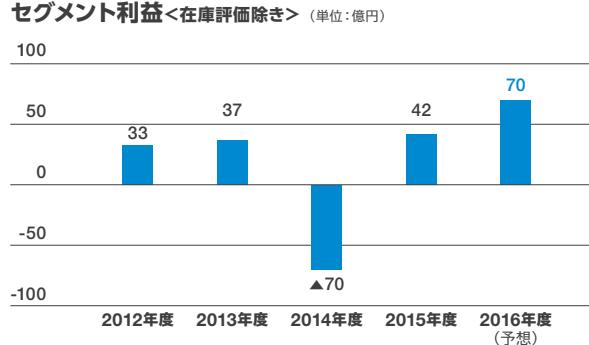
売上高 (単位:億円)



## 次期に向けて

コスモエネルギーグループでは、アジア地域の需要拡大並びにガソリンの国内需要減少への対応として、パラキシレン及びその原料となるミックスキシレン(ガソリン原料)事業に参入し、石油化学事業へのシフトを進めています。また、石油化学事業と石油精製事業とのシナジー追求をめざして2016年3月に丸善石油化学を連結子会社化しました。これにより、2016年度のセグメント売上高は前年比3,689億円増となる4,170億円を計画しています。丸善石油化学の寄与に加えて、市況の回復や経費削減等により、在庫評価の影響を除くセグメント経常利益は、前年比28億円増の70億円を見込んでいます。

セグメント利益<在庫評価除き> (単位:億円)



## TOPICS

# 丸善石油化学を連結子会社化

当社は、2016年3月、持分法適用会社<sup>\*</sup>である丸善石油化学の株式を取得し連結子会社化いたしました。

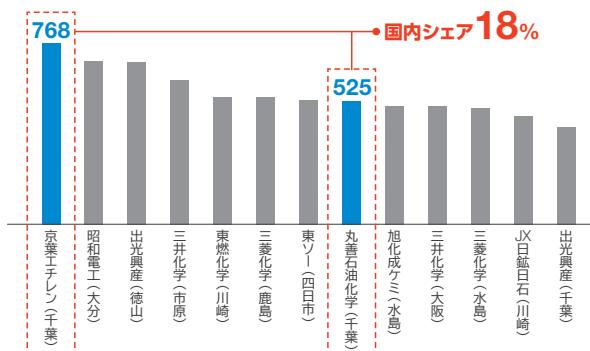
丸善石油化学は、国内でも有数の規模を誇るエチレン生産能力を有し、高品質な製品を供給し続けるとともに強固な財務体質を有しております。

今後、当社グループは丸善石油化学とともに石油精製事業と石油化学事業の一体運営を進め、各事業の競争力強化を図り、シナジーを追求してまいります。また、本件は、丸善石油化学を中心としたコンビナート全体（コスモ石油-丸善石油化学-誘導品メーカー）の競争力強化にも繋がるものと考えております。

<sup>\*</sup>持分法適用会社…議決権所有比率が20%以上50%以下の連結会社



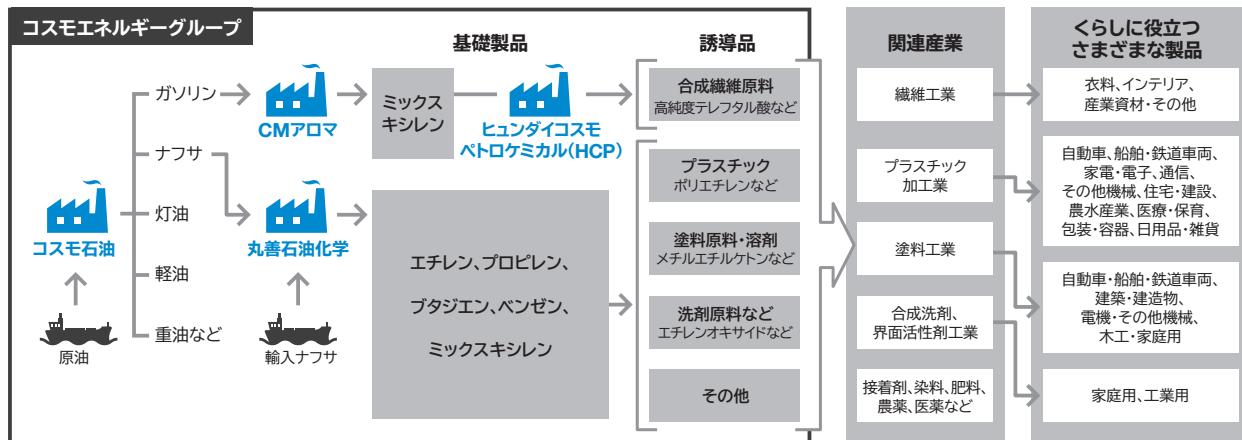
## 国内のエチレン生産能力 (単位:千トン)



<sup>\*</sup>出所:日本の石油化学工業2016(定修スキップ年)

<sup>\*</sup>京業エチレンは丸善石油化学が55%出資する連結子会社

## 石油化学製品のできるまで ~全体の流れ~





# 石油開発事業

Oil Exploration and Production Business

## 主なグループ会社

コスモエネルギー開発  
 コスモアブダビエネルギー開発  
 アブダビ石油／カタール石油開発  
 合同石油開発(持分法適用会社) 他

2015年度

2016年度(予想)

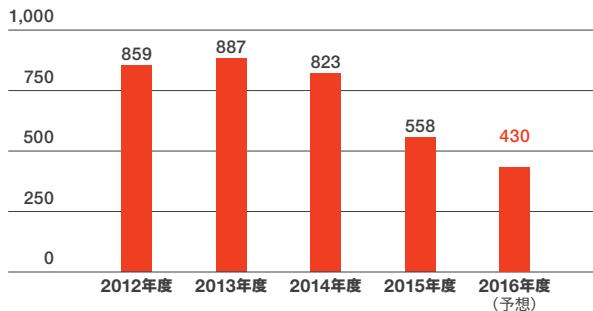
売上高 **558億円** (前期比 ▲265億円) **430億円** (前期比 ▲128億円)

経常利益 **186億円** (前期比 ▲289億円) **75億円** (前期比 ▲111億円)

## 当期の概況

原油生産量は、前年比3.1%増加し39,201バレル／日となりましたが、原油販売価格下落の影響が大きく、石油開発事業のセグメント売上高は前年比265億円減の558億円、セグメント経常利益は前年比289億円減の186億円となりました。

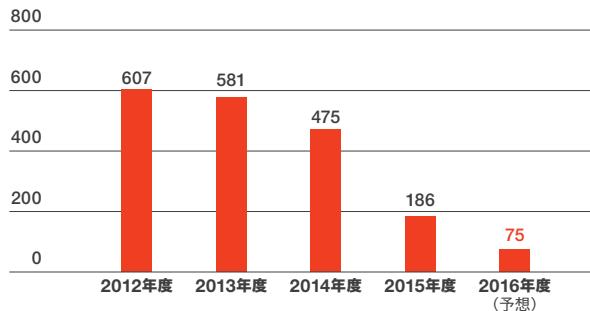
売上高 (単位:億円)



## 次期に向けて

2016年度もアブダビ、カタールをコアエリアとして安定的な原油生産を見込んでいますが、原油価格については40ドル／バレルと前年より低い水準で推移すると想定していることから、セグメント売上高は前年比128億円減の430億円、経常利益は同111億円減の75億円の計画です。中期的な利益水準の回復に向けて、まずは2017年上半年期から本格的な生産を見込むハイル油田の開発を着実に実行しています。また、アブダビファミリー企業であるスペインのセブサ社との間では戦略的パートナーシップをさらに深化させ、新たな事業機会の獲得について検討を進めています。

セグメント利益 (単位:億円)



# 石油事業

Petroleum Business

## 主なグループ会社

コスモ石油  
コスモ石油マーケティング  
コスモ石油販売／コスモ石油LPリカンツ  
総合エネルギー／ジグシス(持分法適用会社) 他

2015年度

2016年度(予想)

売上高 **2兆2,207億円**  
(前期比 ▲7,763億円)

**2兆920億円**  
(前期比 ▲1,287億円)

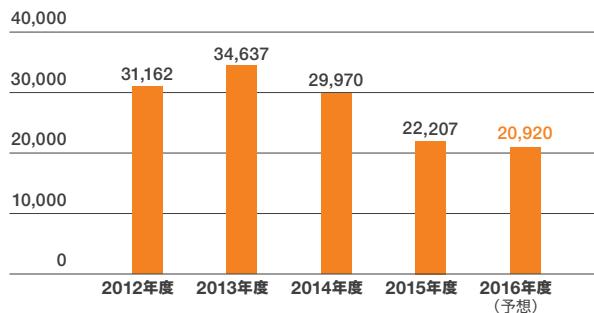
経常利益  
(在庫評価除き) **58億円**  
(前期比 ▲162億円)

**350億円**  
(前期比 +292億円)

## 当期の概況

原油価格の下落及び製品販売数量の減少により、セグメント売上高は前年比7,763億円減の2兆2,207億円となりました。セグメント経常利益は、油価下落による在庫評価損の影響で628億円の損失となりました(前年比307億円の改善)。なお、在庫評価の影響(▲686億円)を除く経常利益は58億円(前年比162億円減)でした。

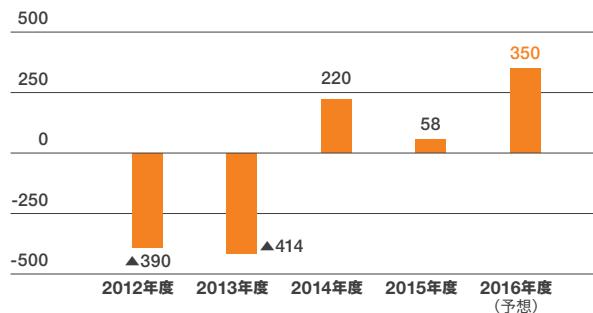
### 売上高 (単位:億円)



## 次期に向けて

2016年度についても原油価格の下落と販売数量の減少が続くと想定し、セグメント売上高は前年比1,287億円減の2兆920億円の計画ですが、千葉製油所の2年ロングラン実現による精製コストの大幅な改善や販売マージンの回復等により、在庫評価の影響を除くセグメント経常利益は、前年比292億円増益の350億円を見込んでいます。販売面においてはマイカーリース事業を軸に、燃料油販売中心のビジネスモデルからカーライフ価値提供業への業態変革を推進し、SSの収益力強化を図っています。

### セグメント利益 <在庫評価除き> (単位:億円)





# その他事業

Other Business

## 主なグループ会社

エコ・パワー  
コスモエンジニアリング  
コスモトレードアンドサービス 他

2015年度

2016年度(予想)

売上高

**714億円**  
(前期比 ▲43億円)\*

**670億円**  
(前期比 ▲44億円)\*

経常利益

**35億円**  
(前期比 ▲9億円)\*

**30億円**  
(前期比 ▲5億円)\*

## 当期の概況

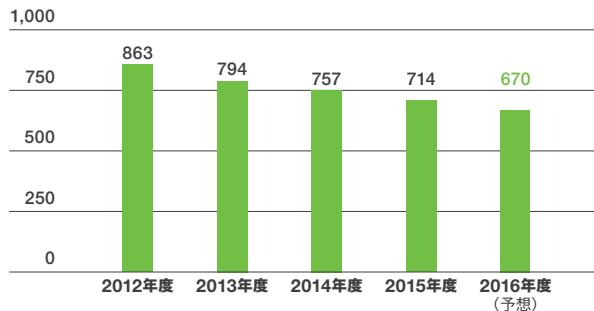
風力発電事業において国内シェア6%にあたる18.4万kWの発電能力を持つグループ会社、エコ・パワーは高い稼働率を維持しました。

※2015年10月の組織体制変更(持株会社制)にともない、2015年度下期よりその他事業の一部が別セグメントに移管となりました。

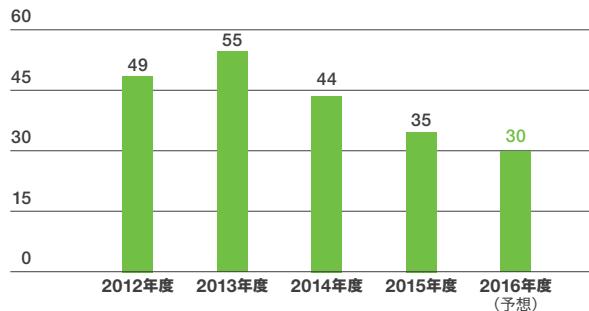
## 次期に向けて

エコ・パワーでは度会ウィンドファーム(三重県)が2016年度下期から運転を開始する予定で、これにより発電能力は約15%増加し、総発電能力は21万kWとなる見込みです。更に、2017年度下期の運転開始をめざして酒田港湾ウィンドファーム(山形県)、石狩湾新港ウィンドファーム(北海道)の工事を進めています。これらにより、2017年度末のグループ発電能力は約23万kWとなる計画です。

売上高 (単位:億円)



セグメント利益 (単位:億円)



コスモ石油エコカード基金

## 会員の皆さまへの感謝イベント「畠山重篤氏 講演会」を実施

当社グループでは、エコカード会員の皆さまとともに、コスモ石油エコカード基金を2002年4月にスタートし、国内外で地球環境貢献活動を展開しています。日頃エコカード基金を支えてくださっている会員の皆さまへの感謝イベントとして、2016年1月（仙台）と2月（大阪）に、エコカード基金のプロジェクトパートナー「NPO法人 森は海の恋人」の理事長であり、国連フォレスト・ヒーローズ<sup>※</sup>でもある畠山重篤氏の講演会を実施しました。京都大学の教授も務める畠山氏ですが、本業は宮城県気仙沼湾で牡蠣の養殖業を営む漁師です。赤潮の発生などで甚大な損害を被った経験から、森と海の関係に目を向け、植林活動を続けてこられました。講演でも「海のことを考える時には森まで視野に入れ、また森のことを考える時には海まで視野に入れる。こうした自然の繋がりを多くの方に意識してもらいたい」と力強く語られ、会員の方々は畠山氏の講演に聞き入っていました。



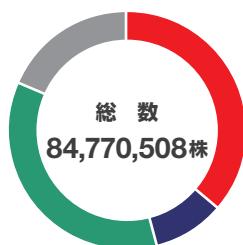
※ 国連森林フォーラムが2011年の国際森林年に際し、世界中から森を守るため地道で独創的な活動をしている功労者を「フォレスト・ヒーローズ」として顕彰したものです。アジア、北米、中南米、欧州、アフリカの各地域から8人が受賞し、アジア地域からは畠山重篤氏のみが受賞しました。




当社グループと全国FM放送協議会（JFN）加盟38局がパートナーシップを組んで「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」をテーマに、より自分らしくあるために、楽しみながら地球にも自分にもやさしい暮らしを選んでいく活動を展開しています。その中の活動に全国各地で工夫を凝らしたイベントをしながら、楽しく清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」があります。2001年から始まった「クリーン・キャンペーン」は、延べ594箇所で開催され22万人以上の方々が参加し、回収したごみの量は630万リットルを超えました。

当社グループでは、石油が人類に恩恵をもたらしてきた一方で石油の大量消費が地球環境に負荷を強いてきた事実を忘れずに、「地球と人と社会との調和」をめざして環境活動に取り組んでいます。

## 発行済株式



■ 金融機関・証券会社 (信託口を含む)	30,736千株 (36.3%)
■ 国内法人 (自己株式を含む)	8,166千株 (9.6%)
■ 外国人	30,098千株 (35.5%)
■ 個人・その他	15,768千株 (18.6%)

(単位:千株未満切り捨て)

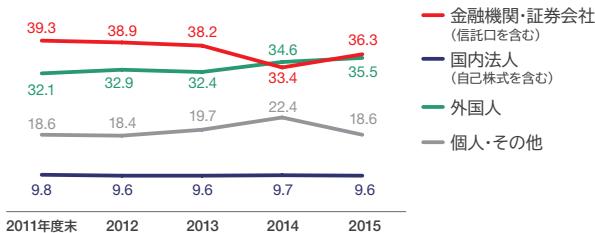
## 株主数



■ 金融機関・証券会社 (信託口を含む)	95名 (0.3%)
■ 国内法人 (自己株式を含む)	442名 (1.4%)
■ 外国人	259名 (0.8%)
■ 個人・その他	31,188名 (97.5%)

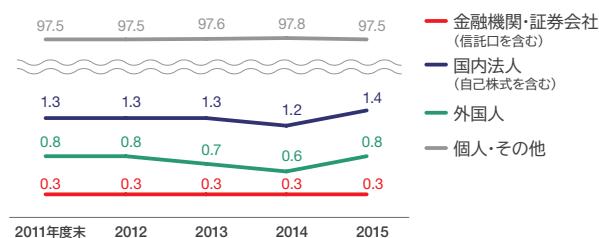
## 発行済株式数の所有者別推移

(単位:%)



## 株主数比率の推移

(単位:%)



## 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
Infinity Alliance Limited (インフィニティ アライアンス リミテッド)	17,600	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,979	4.69
株式会社みずほ銀行	3,153	3.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,975	2.32
関西電力株式会社	1,860	2.19
三井住友海上火災保険株式会社	1,767	2.08
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1,580	1.86
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,579	1.86
コスモエネルギーホールディングス取引先持株会	1,519	1.79
Goldman,Sachs&Co.Reg (ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント)	1,456	1.71

※小数点第3位を切り捨て ※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 会社概要

商号	コスモエネルギーホールディングス株式会社
証券コード	5021
本社所在地	〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 電話 (03) 3798-7545
発足年月日	2015年(平成27年)10月1日
資本金	400億円
事業内容	総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営 管理及びそれに付帯する業務
沿革	1986年4月1日大協石油株式会社、丸善石油株式 会社及び両社の精製子会社である旧コスモ石油 株式会社の3社が合併し、コスモ石油株式会社が 発足。 1989年10月1日アジア石油株式会社を合併。 2015年10月1日コスモエネルギーホールディング ス株式会社が発足。
主要 取引銀行	(株)みずほ銀行 (株)三菱東京UFJ銀行 (株)三井住友銀行

## コスモエネルギーグループの主要データ

特約店数	226店
支店	札幌、仙台、東京、関東南、名古屋、大阪、広島、 高松、福岡
製油所	千葉、四日市、堺 ※坂出製油所は2014年4月から坂出物流基地に移行 しました。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、 その他やむを得ない事由が生じた場合は、 日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL <a href="http://ceh.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html">http://ceh.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html</a>
上場取引所	東証一部

### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### マイナンバーをご自身の証券会社にお知らせください

**マイナンバーの通知について**：2016年1月1日より、新たに証券会社とお取引される方は口座開設時に、また既に証券会社等に口座をお持ちの方につきましても証券会社等にマイナンバー(個人番号・法人番号)を通知していただくことが必要となりました。マイナンバーの通知手続きにつきましては、口座を開設している証券会社等にお問い合わせください。

### 見通しに関する 注意事項

この「事業のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化などにより変化する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

サービスステーション

# コスモSSのご紹介

コスモ石油販売株式会社 コスモ石油サービスカンパニー  
東関東カンパニー セルフ&カーケアステーション船橋

今回ご紹介するサービスステーションは、11月末に東関東カンパニー初のビークルショップとしてリニューアルした「セルフ&カーケアステーション船橋」です。ビークルショップとは、お客様の全てのカーライフをサポートするための新しい業態で、車両のリース・購入から、保険、車検、メンテナンス、そして売却までワンストップでご提供する店舗です。同店ではおすすめ車種一台を試乗車として展示。ディスプレイ・タブレットを使用して対象車の内外装を360度カメラで確認できるようにしたり、リースを申し込む際のコストシミュレーションが行えるコーナーを新設しました。また、タイヤ販売などにも力を入れており、お客様のカーライフサポートをトータルで提案しています。こうした環境作りを行うことでお客様に興味を持ってもらいビークルショップとして月間10台・年間120台の売上目標の達成をめざし、店長の吉岡さんはじめ、スタッフ全員で取り組んでいます。

カーライフでお悩み・お考えの際には、「ココロも満タンに」する「セルフ&カーケアステーション船橋」へご相談ください。



店長 吉岡康広さん



**C's MAIL** シーズ・メール  
Vol.80

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。  
株主の皆さまに、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。

発行 コスモエネルギーホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室  
〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL (03) 3798-3180 FAX (03) 3798-3841

<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/>



IRモバイルサイト  
モバイルサイトへは、  
このQRコードから  
アクセスできます。

UD  
FONT



表紙写真について

上から千葉製油所トッパー、堺製油所の集中計器室、千葉製油所安全パトロール、千葉製油所研修の風景。  
詳細はコスモ石油(株)のHPをご覧ください。